

## (4) 南 関 東



南関東地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(   は上方に変更、   は下方に変更)。

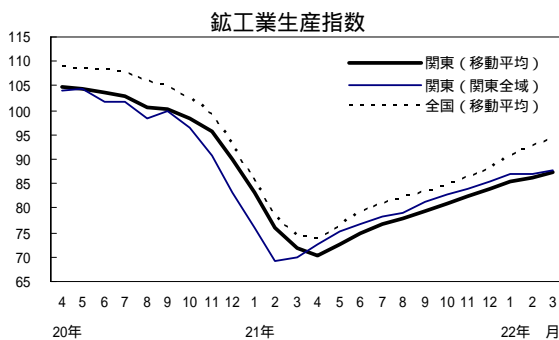
### 前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 22 年 2 月)	今回 (平成 22 年 5 月)	
景況判断	下げ止まっている	持ち直している	
個人消費	おおむね横ばい	持ち直している	
住宅建設	大幅に減少	減少	
雇用情勢	厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やかになっている	厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある	

## 1. 生産及び企業動向

### (1) 鉱工業生産は持ち直している。(関東全域)

輸送機械は、海外向けに普通トラック及び駆動伝導・操縦装置部品等で、増加している。化学は、化粧品やポリエチレンなどで、減少している。一般機械は、アジア向けに半導体製造装置やフラットパネル・ディスプレイ製造装置などで、増加している。電気機械は、リチウムイオン蓄電池及び蛍光ランプなどで、増加している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。  
2. 全国及び関東の太線は後方3か月移動平均。

### 域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

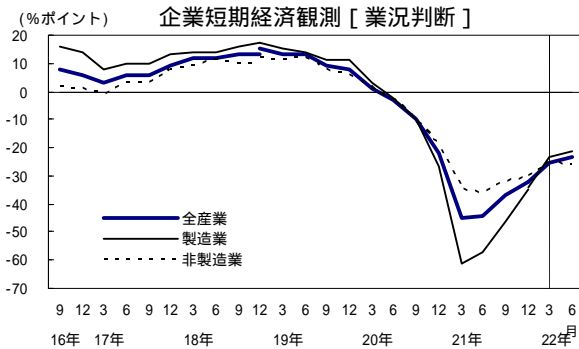
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
輸送機械	15.2	14.7	4.5	3.4	6.2
化学	13.4	0.7			
一般機械	13.2	19.3	12.4	10.8	3.1
電気機械	7.8	5.6	6.2	6.5	10.9
食料品・たばこ	7.1	0.1			
鉱工業	100.0	5.7	3.8	2.8	2.5

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

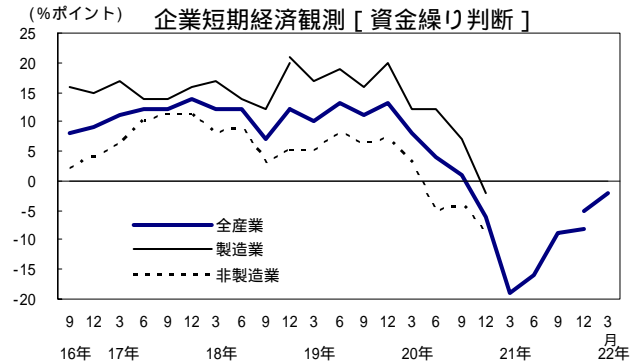
2. 1~3月期は速報値。化学、食料品・たばこは、速報値では公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

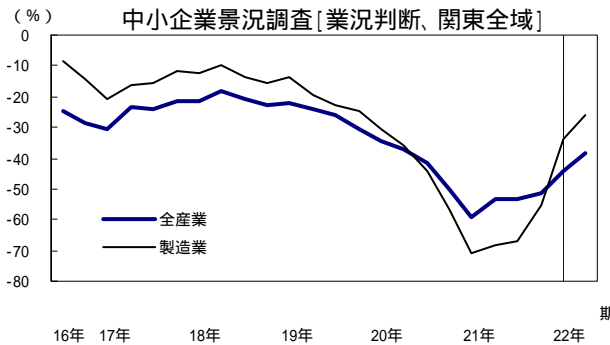
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年6月は予測。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。  
関東全域(新潟県を含む)



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。  
日本銀行横浜支店管内。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(3月)[企業動向関連(現状)]

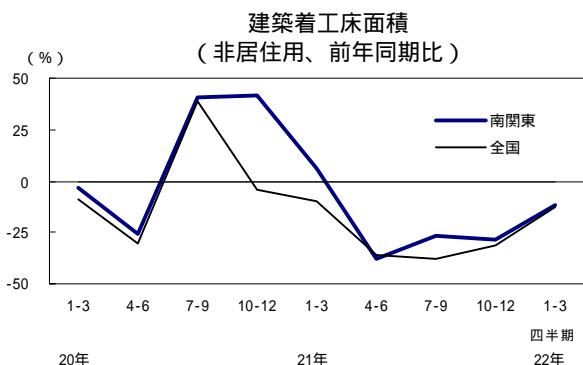
「3月棚卸しの顧客が多いため受注がかなり落ち込む予定だったが、予想より在庫が減少した模様で、落ち込みはある程度抑えられている(プラスチック製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績見込み	22年度計画
全産業	33.1( 8.4)	3.6
製造業	37.5( 9.8)	7.6
非製造業	23.3( 5.7)	3.6

(備考)( )は前回(12月)調査比修正率。  
調査対象は神奈川県。



(4) 南関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

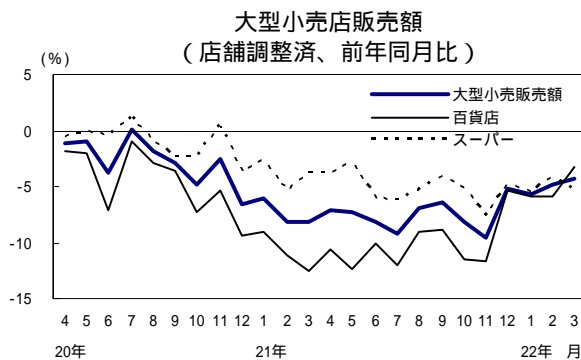
大型小売店販売額

百貨店は、1月は、宝飾品や高級時計が好調だったものの、冬物クリアランスセール等が振るわず衣料品が低調だったことから、前年比の減少幅が拡大した。2月は、バレンタインデーのギフト需要により飲食料品が好調だったものの、婦人服が振るわず衣料品が低調であったことから、引き続き前年を下回った。3月は、高級時計が好調だったことから、前年比の減少幅が縮小した。なお、日本百貨店協会によると、東京地区の4月の売上高は前年同月比4.9%減となっている。

スーパーは、消費者の生活防衛意識は依然として高いことから飲食料品が低調であったものの、エコポイント制度の効果もあって薄型テレビ等が好調であったことから、前年同期比の減少幅は縮小した。

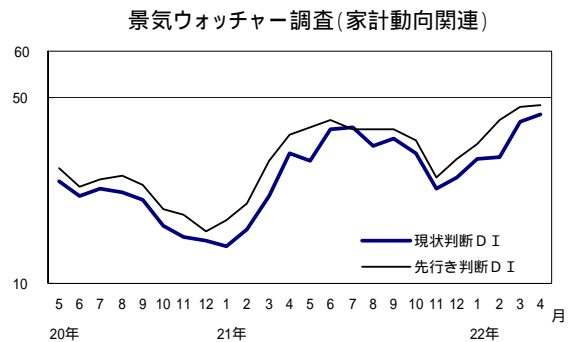
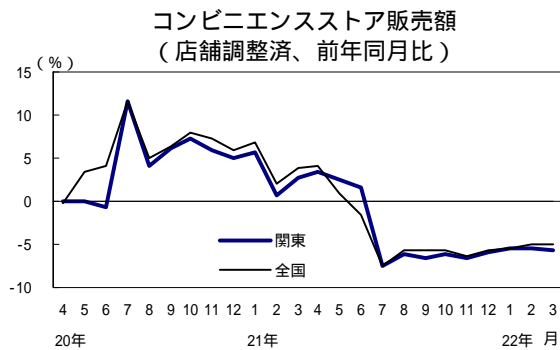
景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「寒暖の差が激しく、衣料品関係は冬物や羽織物が売れている。八百屋は、品薄で商品が高くなってきており、単価は上がっているが客数が非常に少ない(商店街)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同期比、%)			
	21年4-6月	7-9月	10-12月	22年1-3月
大型小売店	7.5	7.6	7.5	5.0
百貨店	11.1	10.3	9.2	4.9
スーパー	4.3	5.3	5.8	5.1
乗用車	20.2	1.6	16.1	24.4
景気ウォッチャー	39.2	41.4	33.8	39.6

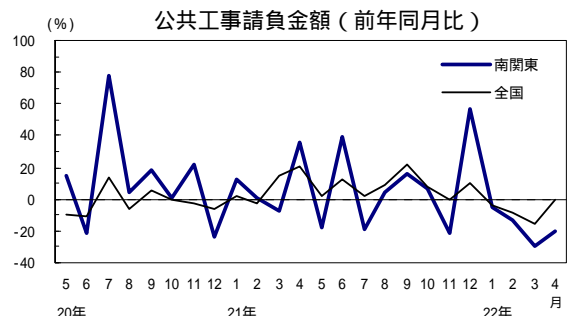
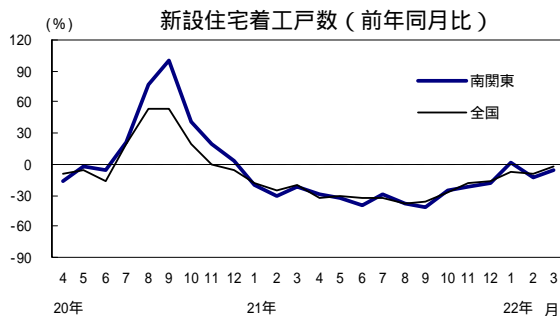
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。22年1-3月期は速報値。  
 2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。  
 3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は減少している。

貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

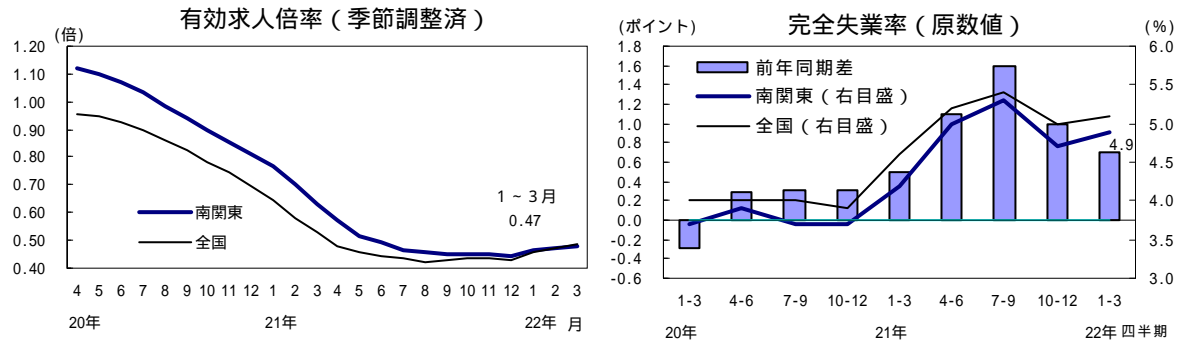


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (2月) [雇用関連 (現状)]

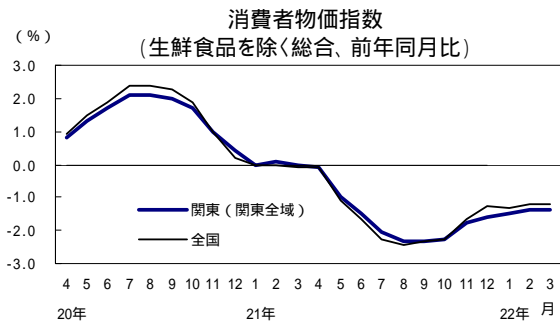
「雇用調整助成金の申請が相変わらず多く、製造業のうち零細事業所が中心となって利用件数は横ばいの状況が続いている。しかし、なかには受注量の増加から休業規模を縮小する事業所がみられる (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額が増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年4-6月	7-9月	10-12月	22年1-3月	22年4月
倒産件数 (前年比)	1,249 12.2	1,263 4.3	1,040 14.2	1,161 12.1	378 15.1
負債総額 (前年比)	6,553 19.4	3,904 93.1	2,945 76.1	28,258 49.2	1,135 36.8



景気ウォッチャー調査 [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状> (2月)

・ファストファッションに消費者の関心は向いており、国内製品への購買意欲は一向に上向いてこない。春節で中国人の富裕層が日本に買出しに来ているが、中国製であっても日本で売っているなら品質が良いと思って買って行く (繊維工業)

<先行き> (4月)

・消費マインドの冷え込みからの脱却を期待できる要素が見当たらず、またガソリン価格の値上げ傾向の継続は出控えの要因ともなり、消費者の支出抑制傾向はまだ続く (遊園地)

